

# 平成22年度八重山群島病害虫発生予報第3号(6月予報)

## 6月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	40	20
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	30	20	40

(平成22年5月28日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

## 平均値

	平均気温( )	最高気温( )	最低気温( )	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	27.9	30.3	26.0	185.7	214.0

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

## 6月の発生予報および防除上の注意事項

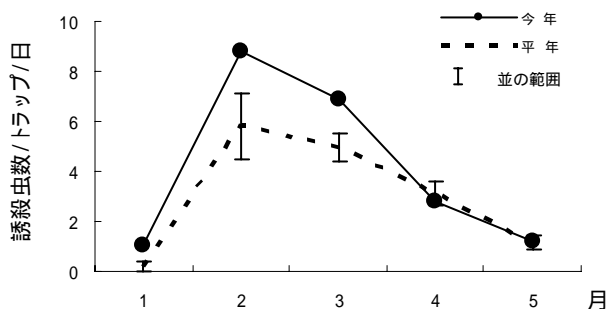
### 1 さとうきび

#### (1) サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)

発生程度 : 並

予報の根拠

5月の合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たりの誘殺数は1.2頭(前年0.7頭、平年1.1頭)と平年並であった。



サキシマカンシャクシコメツキの誘殺虫数の推移

#### < 防除上注意すべき事項 >

- 更新圃場は速やかに古株などの残渣を処理し、植え付けまでに数回耕耘して幼虫密度の低減を図る。
- 培土時に他の土壌害虫の防除も兼ねた薬剤を選定し施用する。

#### メイチュウ類

- 5月下旬の調査の結果、石垣島における春植・株出圃場での芯枯茎率は1.1%(前年2.8%、平年2.3%)と平年よりやや少なかった。また、与那国島の一部圃場で芯枯れの多発生がみられた。
- 5月のカンシャクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.5頭(前年14.1頭、平年7.6頭)と平年よりやや少なかった。
- 葉裏や葉鞘でふ化した幼虫は株元近くへ移動し、芽や根帯から株の内部に食入して生長点を加害し、芯枯れを引き起こす。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点をおく。
- 培土時に他の土壌害虫の防除も兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

## 2 マンゴー

### 果実肥大～成熟期の病害虫防除対策

- a 5月中旬の調査の結果、炭疽病やチャノキイロアザミウマ、ハダニ類の発生が認められた。
- b 罹病した葉や枝、摘果した果実等は施設外へ持ち出し処分し、施設内の通気を良くするとともに袋がけの前に薬剤による防除を徹底する。
- c チャノキイロアザミウマの発生源となる不必要な新梢はビニール袋に入れるなどして、施設外へ持ち出し処分する。
- d 梅雨明け後、袋がけ作業終了とともに天井ビニールを取り外し、通風採光に努める。
- e チャノキイロアザミウマ・ハダニ類は薬剤抵抗性を発達させやすいことから、同系統薬剤の連用をさける。